

資料

「企業短期経済観測調査」(60年5月)の 結果について

調査対象企業数…主要企業短期経済観測調査 654社(回答率 100%)
全国企業短期経済観測調査 7,107社(回答率 91.2%)

(概 況)

主要企業・製造業の業況判断は、前回2月調査時点に比べ良好感が幾分低下している。中小企業・製造業も、2月調査でやや後退したあと、横ばい傾向を示している。

主要企業・製造業の生産、売上げは、内需の着実な増加や自動車の対米船積み急増、中国向け輸出の好調等によってかなり下支えされているものの、電気機械を中心とした輸出の伸び悩み傾向、メーカー在庫の積み上がり等を背景に、目先一進一退の動きが続くと予測されている。こうした中で、製品需給判断も引緩み感をやや強めている。このため、60年度上期の収益見通しは、2月調査に比べ多くの業種で幾分下方修正されている(石油精製を除くベースでは小幅ながら減益の予想)。

もっとも、売上高経常利益率の水準は、諸コストの落ち着き等によりなおかなりの高さを維持している(ほぼ54年度上期の近年ピーク並み)。また、先行き60年度下期にかけての売上げ、収益については割合底固い推移が予想されており、下期の輸出計画も2月調査比減額している先は一部にとどまっている。

この間、小売については、売上げが徐々に上向いており、業況感も引続き改善をみている。

こうした状況下、主要企業の60年度設備投資計画は、2月調査時点に比べ伸びを高めている(前年度比、2月調査+5.2%→5月調査+10.8%)。非製造業の追加が目立っているが、製造業でも、新製品開発投資を中心に小刻みな増額修正の動きが続いている。一方、中小企業の60年度計画はなお未確定の先が多いが、2

月調査時点からは主として非製造業で増額されている。

また、雇用もおおむね底固い足取りを続けている。

なお、企業金融は引続きかなり緩和した状態にある。

1. 主要企業

(業況判断)

主要企業・製造業の業況判断D.I.は、前回2月調査時点に比べ「良い」超幅が幾分縮小し、先行きも9月頃までは若干の低下が予測されている(「良い」-「悪い」社数構成比、59年11月+17%→60年2月+16%→5月+14%→9月予測+10%)。業種別には、自動車は大きく改善しているものの、輸出の伸び悩み傾向等

主要企業の業況判断D.I.

(「良い」-「悪い」回答社数構成比%、()内は1期前調査時予測)

| | 59年 5月 | 8月 | 11月 | 60年 2月 | 5月 | (予測) 9月ま で |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|---------------|------------------|
| 製 造 業 | (9) 11 | (21) 15 | (19) 17 | (18) 16 | (15) 14 | 10 |
| 前期比 変化幅 | +15 | + 4 | + 2 | - 1 | - 2 | - 4 |
| 食 料 品 | 4 | 3 | △10 | △10 | (△ 7) △ 4 | 0 |
| 織 維 | 26 | 26 | 23 | 26 | (26) 20 | 16 |
| パルプ・ 紙 | 15 | 23 | 31 | 16 | (0) 0 | △ 8 |
| 化 学 | 8 | 19 | 22 | 20 | (16) 17 | 6 |
| 石油精製 | 0 | △40 | △22 | △89 | (△89) △100 | △100 |
| 窯 業 | △10 | △10 | △10 | △ 5 | (△14) △ 5 | △ 5 |
| 鉄 鋼 | △15 | △ 7 | 0 | 0 | (0) △ 7 | △ 7 |
| 非鉄金属 | 10 | 24 | 23 | 19 | (19) 14 | 14 |
| 一般機械 | 2 | 8 | 15 | 22 | (30) 27 | 28 |
| 電気機械 | 44 | 49 | 51 | 49 | (45) 38 | 26 |
| 造 船 | △57 | △43 | △43 | △43 | (△57) △33 | △ 50 |
| 自 動 車 | 36 | 39 | 39 | 39 | (42) 50 | 50 |
| 精密機械 | 27 | 27 | 36 | 36 | (36) 27 | 27 |
| 素材業種 | (9) 7 | (17) 11 | (16) 15 | (16) 10 | (6) 5 | 0 |
| 加工業種 | (10) 14 | (23) 18 | (21) 20 | (20) 22 | (23) 23 | 21 |

| | 59年 5月 | 8月 | 11月 | 60年 2月 | 5月 | (予測) 9月ま で |
|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|--------------|------------------|
| 非製造業 | (5) 0 | (7) 2 | (7) 6 | (9) 7 | (9) 8 | 8 |
| 前期比 変化幅 | + 7 | + 2 | + 4 | + 1 | + 1 | 0 |
| 建 設 | △29 | △27 | △25 | △20 | (△15) △18 | △ 18 |
| 商 社 | 11 | 12 | 12 | 4 | (8) 4 | 4 |
| 小 売 | △ 7 | 0 | 7 | 10 | (14) 20 | 23 |
| 運 輸 | △22 | △15 | △ 6 | △ 8 | (△ 4) △ 9 | △ 15 |
| 電力・ガ ス | 43 | 21 | 36 | 29 | (14) 21 | 14 |
| サービス | 25 | 28 | 28 | 30 | (30) 30 | 30 |

(備考)

素材・加工業種別区分は次による。

素材業種：繊維、パルプ・紙、化学、石油精製、窯業、鉄鋼、非鉄金属。

加工業種：食料品、金属製品、一般機械、電気機械、輸送用機械、精密機械、その他製造業。

を背景に電気機械の良好感が2月調査に続きかなり後退し、素材業種でも、在庫の積上がりや製品市況の軟化に伴って業況の伸び悩み感を指摘する企業が徐々に増えている(繊維、パルプ・紙、化学、鉄鋼など)。

一方、非製造業の業況判断 D. I. は、商社、運輸など一部業種の伸び悩みが響いて横ばい傾向となっている(「良い」-「悪い」社数構成比、60年2月+7%→5月+8%→9月予測+8%)が、小売では引続き改善をみている(同、60年2月+10%→5月+20%→9月予測+23%)。

(生産、売上げ)

製造業の生産、売上げは、輸出落込みの影響から1~3月に低下したあと、4~6月には自動車の対米船積みの急増や中国向け輸出の好調等を背景に持直す見込みとなっている。しかし、7~9月は、再び輸出の鈍化等に伴って一服すると

主要企業・製造業の生産、売上げ

イ、四半期別

(季節調整済み前期比増減(Δ)率%)

| | 59年 10~12月 | 60年 1~3月 | (予 測) 4~6月 | (予 測) 7~9月 |
|--------|---------------|-------------|---------------|---------------|
| 生 産 高 | 2.0 | Δ 0.8 | 2.7 | 0.4 |
| 売 上 高 | 0.8 | Δ 0.4 | 3.2 | 0.9 |
| うち輸 出 | 3.3 | Δ 2.3 | 6.8 | Δ 0.8 |
| 製品在庫残高 | 1.9 | 5.0 | Δ 2.5 | Δ 1.8 |

ロ、半期別

(季節調整済み前期比増減(Δ)率%、年度は前年
度比増減(Δ)率、()内は1期前調査時予測)

| | 59年度 | | (予測) 60年度 | | 59年度 | (予測) 60年度 |
|-------|------|-----|---------------|---------------|------|----------------|
| | 上 期 | 下 期 | 上 期 | 下 期 | | |
| 生 産 高 | 4.1 | 3.7 | 2.6 | 2.8 | 9.2 | 5.8 |
| 除く自動車 | 4.2 | 3.6 | 2.0 | 3.0 | 9.3 | 5.1 |
| 売 上 高 | 4.4 | 3.0 | (3.2) 3.2 | (2.1) 2.5 | 8.6 | (5.6) 5.9 |
| 除く自動車 | 4.6 | 2.7 | (2.6) 2.3 | (2.5) 2.9 | 8.4 | (5.2) 5.1 |
| うち輸 出 | 6.9 | 4.0 | (4.6) 5.0 | (2.7) 3.4 | 12.4 | (6.1) 7.4 |
| 自 動 車 | 7.5 | 5.1 | (7.5) 9.7 | (1.0) 1.0 | 13.9 | (9.3) 12.6 |
| 除く自動車 | 6.6 | 3.5 | (3.2) 2.7 | (3.5) 4.7 | 11.7 | (4.6) 4.9 |
| 内 需 | 3.4 | 2.5 | (2.7) 2.5 | (1.8) 2.1 | 7.1 | (5.3) 5.3 |

(注) 生産、売上げは石油精製を除くベース。

予測されている(季節調整済み前期比、生産60年1～3月 $\Delta 0.8\%$ →4～6月 $+2.7\%$ →7～9月 $+0.4\%$ 、売上げ同 $\Delta 0.4\%$ → $+3.2\%$ → $+0.9\%$)。この結果、60年度上期通計の生産、売上げは、自動車の振れを調整すると前期に比べ伸びが幾分鈍化する見通しとなっている(季節調整済み前期比、生産59年度下期 $+3.6\%$ →60年度上期 $+2.0\%$ 、売上げ同 $+2.7\%$ → $+2.3\%$ ＜いずれも自動車を除く＞)。これを内外需別に2月調査と比較すると、内需が着実に増加している一方で、輸出は、自動車が対米船積み枠の拡大からかなり増額しているほかは、電気機械を中心に幾分下方修正されている。

この間、メーカー在庫が多く業種で積上がりを示しており(季節調整済み前期比、59年10～12月 $+1.9\%$ →60年1～3月 $+5.0\%$)、それに伴って製品需給判断D. I. は2月調査に続き幾分悪化している(「需要超」-「供給超」社数構成比、59年11月 $\Delta 25\%$ →60年2月 $\Delta 27\%$ →5月 $\Delta 29\%$)。業種別には、とくに電気機械(半導体、電子部品)や一般機械(ベアリング)の悪化が目立っている。また、素材業種では、在庫の過剰感が幾分強まっている(繊維、化学、鉄鋼、非鉄など)。

主要企業・製造業の製品需給判断D. I.

(「需要超」-「供給超」回答社数構成比%、()内は1期前調査時予測)

| | 59年5月 | 8月 | 11月 | 60年2月 | 5月 | (予測) 9月まで |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------------------------|--------------|
| 製品需給判断 | $\Delta 30$ | $\Delta 27$ | $\Delta 25$ | $\Delta 27$ | ($\Delta 28$) $\Delta 29$ | $\Delta 26$ |
| うち 電気機械 | $\Delta 3$ | 5 | 0 | $\Delta 7$ | ($\Delta 5$) $\Delta 18$ | $\Delta 16$ |

もっとも、60年度下期の売上げ計画については、割合底固い推移が予測されている(季節調整済み前期比、60年度上期 $+2.3\%$ →下期 $+2.9\%$ ＜自動車を除く＞)。内外需別には、内需が堅調な足取りを続けるほか、輸出についても、自動車は対米船積みの上期前倒しの反動等から伸びを低めるものの、そのほかの業種では緩やかな増勢回復が期待されている。なお、下期の輸出計画を2月調査に比べ減額している先はプラント、造船など一部の業種にとどまっている。

この間、非製造業の60年度上期の売上げは、商社での輸出鈍化が響いてやや伸び悩む見通しとなっている(季節調整済み前期比、59年度下期 $+4.2\%$ →60年度上期 $+1.5\%$)が、小売では徐々に伸びを高めると予測されている(同、59年度上期 $+1.8\%$ →下期 $+2.1\%$ →60年度上期 $+2.7\%$)。

主要企業・非製造業の売上げ計画

(季節調整済み前期比増減(△)率%、年度は前年度比増減(△)率)

| | 59年度 上期 | 下期 | (予測) 60年度 上期 | 59年度 | (予測) 60年度 |
|-----------|------------|-----|--------------------|------|--------------|
| 売 上 高 | 2.9 | 4.2 | 1.5 | 7.2 | 4.3 |
| うち 商 社 | 3.6 | 4.4 | 1.8 | 8.1 | 4.6 |
| 小 売 | 1.8 | 2.1 | 2.7 | 4.2 | 4.6 |

(企業収益)

製造業の経常利益は、59年度下期までかなりの増益を続けてきたあと、60年度上期については、生産、売上げの鈍化に伴って多くの業種で2月調査比幾分下方修正され、石油精製を除くベースでは小幅ながらも減益の予想となっている(前期比、59年度上期+18.0%→下期+7.6%→60年度上期△0.8%)。業種別にも、増益を見込んでいるのは自動車(輸出増が寄与)、食料品(季節的な売上げ増加を反映)程度にとどまっている。

主要企業の経常利益

(前期比増減(△)率%、()内は前年比増減(△)率)

| | 59年度 上期 | 下期 | 60年度上期(予測) | (予測) |
|----------------------|-------------------|-----------------|------------------------|-----------------|
| | | | 2月調査→5月調査 | 下期 |
| 製 造 業 | 10.9 | 5.4 | 5.4→ 0.6 | 10.3 |
| 除く 石油精製 | 18.0 | 7.6 | 4.0→△ 0.8 | 8.2 |
| 素材業種 (除く 石油精製) | 22.2 | 9.9 | △ 1.5→△ 7.7 | 7.8 |
| 加工業種 | 16.5 | 6.7 | 6.1→ 1.9 | 8.2 |
| 非 製 造 業 | △ 25.6 (8.4) | 23.6 (△ 8.1) | △ 6.3→△ 12.8 (7.8) | 15.7 (0.9) |
| 除く 電力・ガス | △ 17.4 (13.7) | 16.1 (△ 4.1) | 4.7→△ 0.2 (15.9) | 14.3 (14.1) |

(参考) 売上高経常利益率

(%)

| | 59年度 上期 | 下期 | (予測) 60年度 上期 | (予測) 下期 | 近 年 ビーク |
|------------------|------------|------|--------------------|------------|----------------|
| 製 造 業 | 4.65 | 4.64 | 4.62 | 4.87 | (54/上) 4.77 |
| 除く石油精製 | 5.06 | 5.24 | 5.07 | 5.28 | (54/上) 5.14 |
| 素材業種 (除く石油精製) | 4.09 | 4.35 | 4.01 | 4.24 | (54/上) 5.15 |
| 加工業種 | 5.55 | 5.69 | 5.57 | 5.78 | (54/下) 5.23 |

もともと、60年度上期の売上高経常利益率は、これまでのコスト削減努力や今春ベアの落ち着き等を背景に依然かなり高く(石油精製を除くベースで5.07%)、近年ピークの54年度上期(5.14%)並みの水準を維持している。なお、下期については、加工、素材両業種とも復調傾向が予測されている(石油精製を除く前期比+8.2%)。

非製造業の60年度上期の経常利益は、季節的な売上げ低下の影響から前期比減益のかたちとなっているが、前年同期比の伸び率でみると、59年度下期低下(円安による電力、石油元売りの悪化が主因)のあと、60年度上期は再び増加が見込まれている(前年比、59年度上期+8.4%→下期△8.1%→60年度上期+7.8%)。

(設備投資)

60年度の設備投資計画は、2月調査時点に比べ製造業(前年度比、2月調査+6.8%→5月調査+15.0%)、非製造業(同+3.5%→+6.1%)とも伸びを高め、全体では前年度比+10.8%となっている(2月調査同+5.2%)。これには、工事の遅延等によって59年度の実績が下振れし(前年度比、2月調査+7.5%→実績+4.0%)、その分60年度に持越されたことも影響しているが、60年度計画についても新規の工事がかなり追加されている。

主要企業の設備投資計画(工事ベース)

(前年度比増減(△)率%)

| | 58年度 | 59年度 | | 60年度(計画) | | 59年5月時点 の59年度計画 |
|-------|-------|---------|------|-----------|--------------|--------------------|
| | | 2月調査→実績 | 績 | 2月調査→5月調査 | 2月調査 比修正率 | |
| 製造業 | △ 8.2 | 16.9→ | 13.4 | 6.8→ | 15.0 | (+ 4.4) 〔 11.0〕 |
| 非製造業 | △ 0.9 | △ 1.3→△ | 4.6 | 3.5→ | 6.1 | (- 1.0) 〔 0.0〕 |
| 電力 | 1.3 | △ 2.7→△ | 8.0 | 4.8→ | 4.4 | (- 5.8) 〔△ 1.0〕 |
| 除く電力 | △ 4.9 | 1.5→ | 1.9 | 1.2→ | 9.0 | (+ 8.1) 〔 1.9〕 |
| 主要企業計 | △ 4.6 | 7.5→ | 4.0 | 5.2→ | 10.8 | (+ 1.9) 〔 5.3〕 |
| 除く電力 | △ 7.3 | 12.8→ | 10.2 | 5.4→ | 13.5 | (+ 5.3) 〔 8.6〕 |

業種別には、非製造業で不動産、サービス等の増額修正が目立っている。また、製造業でも、新製品開発投資を中心に多くの業種が新規の工事を追加している(新製品開発投資の前年度比、2月調査+9.3%→5月調査+16.1%)。この間、製造業の増産投資については、自動車、工作機械等がさらに増額しているほかは、やや一服気配にあるが、設備判断 D.I. は大勢横ばいで、格別変化はみられていない(「過剰」-「不足」社数構成比59年11月+12%→60年2月+15%→5月

+14%)。

製造業の目的別内訳

(前年度比増減(△)率%)

| 〔60年度〕 ウエイト | 58年度 | 59年度 | 60年度(計画) | |
|----------------|------|------|-----------|--------------|
| | | | 2月調査→5月調査 | 2月調査 比修正率 |
| 増産〔32.9〕 | △6.0 | 33.5 | 6.8→16.2 | (+8.5) |
| 新製品開発〔19.9〕 | △0.6 | 19.6 | 9.3→16.1 | (+5.0) |
| 合理化〔22.6〕 | △1.3 | 0.1 | 4.5→8.9 | (-3.6) |
| その他とも計〔100.0〕 | △8.2 | 13.4 | 6.8→15.0 | (+4.4) |

(参考) 生産設備判断 D.I.

(「過剰」-「不足」回答社数構成比)
%、()内は1期前調査時予測

| | 59年 5月 | 8月 | 11月 | 60年 2月 | 5月 | (予測) 9月まで |
|-----|-----------|----|-----|-----------|------------|--------------|
| 製造業 | 20 | 16 | 12 | 15 | (15) 14 | 14 |

(企業金融)

なお、企業金融面では、収益の高水準等を背景に資金繰り判断は、引続きかなり緩和した状態にある(「楽である」-「苦しい」社数構成比<主要企業計>、59年11月+21%→60年2月+22%→5月+23%)。

企業金融関連指標

<資金繰り判断 D.I.>

(「楽である」-「苦しい」回答社数構成比)
%、()内は1期前調査時予測

| | 59年 5月 | 8月 | 11月 | 60年 2月 | 5月 | (予測) 9月まで |
|-------|-----------|----|-----|-----------|------------|--------------|
| 主要企業計 | 22 | 23 | 21 | 22 | (18) 23 | 20 |

2. 中小企業

(業況判断)

中小企業・製造業の業況判断 D.I. は、2月調査で幾分後退したあと、横ばい傾向となっている(「良い」-「悪い」社数構成比、59年11月0%→60年2月△3%→5月△4%)。業種別には、自動車部品や工作機械が改善している一方で、電気機械(電子部品)は2月調査に続いてかなり後退し、繊維、パルプ・紙、化学、窯業・土石等も悪化している。この間、非製造業でも、卸売や運輸・倉庫の悪化を

主因に横ばい傾向が続いている(同△3%→△5%→△5%)ものの、小売、サービスは改善を示し、不動産も引続き好感度を強めている。

中小企業の業況判断D.1.

(「良い」-「悪い」回答社数構成比%、()内は1期前調査時予測)

| | 59年 5月 | 8月 | 11月 | 60年 2月 | 5月 | (予測) 9月ま で |
|------------|------------|-----------|-----------|------------|--------------|------------------|
| 製 造 業 | (△3) △1 | (3) 0 | (4) 0 | (0) △3 | (△2) △4 | △4 |
| 前期比 変化幅 | +9 | +1 | 0 | -3 | -1 | 0 |
| 食 料 品 | △1 | △2 | △5 | △2 | (△7) △12 | △6 |
| 織 維 | △4 | △6 | △13 | △11 | (△8) △15 | △15 |
| 木材・木 製品 | △35 | △45 | △33 | △32 | (△15) △30 | △18 |
| パルプ・ 紙 | 4 | △3 | △3 | △10 | (△7) △16 | △15 |
| 化 学 | 0 | 0 | △1 | 4 | (0) △2 | 5 |
| 窯業・土 石 | △14 | △17 | △16 | △7 | (△10) △11 | △20 |
| 鉄 鋼 | 1 | 10 | 6 | △2 | (△5) △2 | △3 |
| 非鉄金属 | 20 | 33 | 32 | 3 | (3) 3 | 3 |
| 金属製品 | 1 | 6 | 8 | 1 | (4) 7 | △1 |
| 一般機械 | △6 | 3 | 2 | 4 | (7) 8 | 4 |
| 電気機械 | 41 | 44 | 42 | 22 | (19) 14 | 11 |
| 輸送用機 械 | △7 | △6 | 1 | 0 | (3) 5 | 1 |
| 精密機械 | 13 | 36 | 37 | 19 | (6) 18 | 19 |
| 素 材 業 種 | △7 | △9 | △10 | △10 | (△8) △13 | △12 |
| 加 工 業 種 | 4 | 7 | 8 | 3 | (3) 4 | 3 |

| | 59年 5月 | 8月 | 11月 | 60年 2月 | 5月 | (予測) 9月ま で |
|------------|------------|------------|------------|------------|--------------|------------------|
| 非製造業 | (△4) △5 | (△2) △5 | (△1) △3 | (△2) △5 | (△6) △5 | △4 |
| 前期比 変化幅 | +6 | 0 | +2 | -2 | 0 | +1 |
| 建 設 | △9 | △15 | △6 | △14 | (△17) △12 | △16 |
| 卸 売 | △7 | △6 | △5 | △5 | (△2) △9 | △4 |
| 小 売 | △4 | △3 | △9 | △11 | (△12) △6 | △6 |
| 不 動 産 | 13 | 9 | 4 | 6 | (6) 16 | 18 |
| 運輸・倉 庫 | △6 | △5 | 2 | △2 | (△11) △6 | △6 |
| サービス | △1 | 1 | 2 | 4 | (3) 5 | 5 |

(備考)

全国短観の素材・加工業種別区分は次による。
 素材業種：繊維、木材・木製品、パルプ・紙、
 化学、石油・石炭、窯業・土石、鉄
 鋼、非鉄金属。
 加工業種：食料品、金属製品、一般機械、電気
 機械、輸送用機械、精密機械、そ
 の他製造業。

(売 上 げ)

製造業の60年度上期売上げ計画は、多くの業種で2月調査比幾分減額され、前期に比べ伸びがかなり鈍化する見込みとなっている(前年比、59年度下期+5.0%→60年度上期+3.0%)。一方、非製造業については、建設など一部業種の不振が響いて、60年度上期も伸び悩み傾向が予測されている(同、59年度下期+3.1%→60年度上期+2.5%)が、小売、不動産等では持直しが期待されている(前年比、小売59年度下期+1.4%→60年度上期+3.9%、不動産同△0.8%→+5.3%)。

中小企業の売上げ

(前年比増減(Δ)率%、()内は1期前調査時予測)

| | 59年度上期 | 下 期 | (予 測) 60年度上期 |
|-----------|--------|-------|-----------------|
| 製 造 業 | 7.4 | 5.0 | (3.8) 3.0 |
| 非 製 造 業 | 7.3 | 3.1 | (2.2) 2.5 |
| うち 小 売 | 2.5 | 1.4 | (3.5) 3.9 |
| 不 動 産 | 3.5 | Δ 0.8 | (3.7) 5.3 |

(企業収益)

製造業の60年度上期経常利益は、2月調査に比べ電気機械をはじめ多くの業種で下方修正され、ほぼ前期並みの水準にとどまる予測となっている(前期比、59年度下期+9.9%→60年度上期+1.4%)。一方、非製造業は、季節的な要因をならしてみると、小売、サービス、不動産を中心に小幅増益が見込まれている(前年比、59年度下期△2.2%→60年度上期+3.3%)。

中小企業の経常利益

(前期比増減(Δ)率%、()内は前年比増減(Δ)率)

| | 59年度上期 | 下 期 | 60年度上期(予測) | |
|---------|-------------------|-----------------|------------|------------------|
| | | | 2月調査 | 5月調査 |
| 製 造 業 | 5.5 | 9.9 | 15.4 | 1.4 |
| 非 製 造 業 | Δ 21.1 (22.9) | 24.0 (Δ 2.2) | Δ 12.1 | Δ 16.7 (3.3) |

(設備投資)

60年度の設備投資計画は、なお未確定の先が多く、例年同様減少の計画となっ

中小企業の設備投資計画(工事ベース)

(前年度比増減(Δ)率%)

| | 58年度 | 59年度 | 60年度(計画) | | 59年5月時点 の59年度計画 | |
|---------|-------|------|----------|-------|--------------------|----------|
| | | | 2月調査 | 5月調査 | | |
| 製 造 業 | 10.9 | 29.1 | Δ30.8 | Δ20.7 | (+11.4) | [8.7] |
| 非 製 造 業 | Δ24.2 | 5.7 | Δ26.3 | Δ11.2 | (+18.6) | [Δ 11.6] |
| 中小企業計 | Δ14.7 | 14.3 | Δ28.2 | Δ15.2 | (+15.7) | [Δ 4.4] |

(参考) 5月調査における設備投資の2月調査比修正率

| | 49~59年度平均 | 59年度 | 60年度 |
|-------|-----------|--------|--------|
| 製 造 業 | + 19.6 % | + 29.5 | + 11.4 |
| 非製造業 | n.a. | + 16.3 | + 18.6 |

ているが、2月調査時点からは主として非製造業(サービス、不動産など)でかなりの増額修正をみている(前年度比、製造業2月調査 Δ 30.8% \rightarrow 5月調査 Δ 20.7%、非製造業同 Δ 26.3% \rightarrow Δ 11.2%)。

3. 全国企業

(雇 用)

雇用面では、全国企業(中小企業に主要企業、中堅企業を含めたベース)の雇用判断D.I.は、新規採用も加わって、幾分引緩みをみている(「過剰」-「不足」社数構成比、59年11月 Δ 1% \rightarrow 60年2月 Δ 3% \rightarrow 5月+1%)が、これは主として電気機械での人手不足感が解消したことが影響している。この間、雇用者数は底固い動きを続けている(前年比、59年12月末+0.7% \rightarrow 60年3月末+0.5% \rightarrow 6月末+0.7% \rightarrow 9月末+1.0%)。

全国企業の雇用(主要企業、中堅企業、中小企業の合計)

(%)

| | 59年 5月 | 8月 | 11月 | 60年 2月 | 5月 | (予測) 9月まで |
|---------------------------------------|-----------|----|------------|------------|----|--------------|
| 雇人員判断D.I. (「過剰」-「不足」回) (答社数構成比) | 3 | 2 | Δ 1 | Δ 3 | 1 | Δ 2 |

| | 59年 6月末 | 9月末 | 12月末 | 60年 3月末 | (予測) 6月末 | (予測) 9月末 |
|-------------------------------|------------|-----|------|------------|-------------|-------------|
| 雇 用 者 数 (前年比増減 Δ 率) | 0.4 | 0.6 | 0.7 | 0.5 | 0.7 | 1.0 |